

アクセス方法

<飛行機>
 ・羽田空港→庄内空港(約1時間)
 ・伊丹空港→庄内空港(約1時間15分)→空港から車で約20分

<電車>
 ・東京駅→上越新幹線・新潟駅→羽越本線・余目駅(約4時間)
 ・東京駅→山形新幹線・新庄駅→陸羽西線・余目駅(約4時間)

<車>
 ・川口IC→(東北自動車道)→村田JCS→(山形自動車道)→酒田IC(約8時間)
 ・鶴岡IC→(関越自動車道)→新羽西IC→(国道7号線)→酒田(約8時間)
 ・酒田ICから、国道7号線、国道47号線で庄内町へ(約15分)

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～こころのふるさとにふれる旅～

コブック vol. 36

白き風の声
 ～山形県 庄内町～

2012年1月2 9日(日)放送



米作など、農業が盛んな庄内町。春から秋、忙しく働いた農家の人たちが農閑期の冬、家の中でのんびりと過ごします。昔から、農家の女性達は、この時期、作業着に「刺し子」を施してきました。三浦文さん(80歳)は、今では、のんびりと袋や小さな敷物を作ります。庄内の伝統的な模様「米刺し」。米の字の模様は、「今年も豊作でありますように。」ひと針ひと針に願いが込められています。また、女性達の楽しみは、ご近所の女性たちと、自慢の料理や漬物を持ち寄って、茶談み話に花を咲かせる時間。吹雪の中、女性達が過ごす温かい時間が、ご近所の距離を近づけます。

温かい時間

旅の見どころ 3



花き栽培に力を入れている庄内町。ハウスの中では、白、ピンク、紫の鮮やかなアストルが咲き誇ります。池田宏志さん(28歳)は、代々米農家。仙台でサラリーマンをしていた池田さんは、4年前、ふるさとに戻り、花作りを始めました。ハウス内の花農家のもとで、一から教わりました。吹雪や寒さ、風とうまくつきあいなから、毎日、花の世話をしています。雪が降れた時に見える、ふるさとの大好きな風景に背中を押されながら、今日も花作りに情熱を注いでいます。

ふるさとで

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

子どもは風の子

朝、子どもたちが、集落ごとに、8つの集合場所へ向かいます。遠方から学校に通う子どもや、冬の間、地吹雪などで、徒歩での通学が困難な子どもたちが、スクールバスを待つのです。集落を回るスクールバスは、子どもたちにとって大切な足です。雪深い山道から、風が吹き抜ける平野部まで、25キロを走っていきます。「子どもは風の子」。安全運転で、子どもたちを優しく守り、学校へ。子どもたちの元気な声が響きます。

